



六 夜待がフィナーレを迎えたのは日付が変わる直前。およそ6時間にわたる公演にも会場の一体感が失われることはなく、あたたかい心通わせたイベントは、実行委員会の合唱で幕を下ろしました。一人では決して作れないイベントは、いつの時代も、またどんな世代でも、人と人の心をつなぎ、互いの理解を深める手段として古くから利用されてきました。さらに、無限の可能性があるイベントの力。まちづくりの核となる住民の熱意や創意も、そこから生まれるのかもしれない。



江戸から伝わる演芸会

江戸時代のお祭りである「上弁城六夜待」を、当時の常会長が地域にとって必要なイベントだと復活させたのが13年前。以来、実行委員を中心に地域全体が協力し、特別な思いで毎年この日を迎えています。

8月20日、7月に完成した新舞台を祝う儀式の後、大正琴の演奏で幕を開けた六夜待演芸会。演奏、歌、舞踊、ダンス、演劇などの24演目に加えて飛び入り参加もあり、小学生

地域の絆がまちをはぐくむ

携わってきた人々の思いや愛情が込められてこそ成功するイベント。それらの課程の中で生まれたつながりは、明日をつくるエネルギーになります。

から80代までの総勢約百人が舞台上に立ち、会場からの声援を受けながら生き生きと自らを表現しました。

思いを共有する

「この会場では毎晩、夜7時ごろから日付が変わるまで練習が行われていました。実行委員は5月から計画を練り、前日は集会所に泊まり込みで準備。でも不思議ときつくないんですよね。みんな青春を取り戻したように輝いていましたよ」と六夜待実行委員会の永末光一会長。このイベントを成功させたい。楽しんでもらいたい。そんな共通の思いで、地域の人と人がつながっていきました。子どもから大人まで幅広い観客に笑いと感動を与えたステージは、陰でイベントを支えた多くの人たちの協力によって作られ、成功に導かれたものでした。

イベントが生む地域の力

同じ目標、やりがい、生きがい、達成感を共有することで、そこに頑丈な絆が生まれます。たくさんの人たちが一つのイベントを支えている姿は、まさに地域コミュニティの原点。そこには、想像を超える地域の力が秘められているように感じます。

4.会場の興奮が最高潮に達した平均年齢49歳のグループ「Rock-YA!」のステージ / 5.6.中盤からの激しい雨にもひるまず続行 / 7.小学生2人のバントワリング / 8.実行委員による毎年大爆笑の演劇「10時ごろだよ。全員集合!」 / 9.九州を中心にライブを行うギタリスト「アツヨシ」の弾き語り



		1
7	4	2
8	6	5
9		3

1. 新舞台のこけら落とし公演の前に鏡開き / 2. 磨き抜かれた妙技が集結 / 3. 自作の曲を披露した「おやじバンド」

永末光一 実行委員長

出演者によっては、4か月前から連日が変わるまで練習を重ねてきた人もいます。みんなの中で六夜待の成功という一つの目標ができ、年配者と若者の間にも自然と絆ができていきました。

